

要約

私たちは、日常生活における様々な場面で音楽を耳にし、現代において、音楽は私たち人間にとって欠かせない存在となっている。本研究では、その中でも特にBGMと呼ばれる音楽について、「ながら勉強」に着目しながら、課題と音楽に含まれる言語情報が文章課題の遂行にどのような影響を及ぼすかについて検討を行った。

本研究では、日本語を母語とする大学生を対象に、「無音」「音楽のみ」「英語音楽」「日本語音楽」の4つの音楽環境下で日本語課題および英語課題を遂行させ、作業量および誤答率を評価指標とする比較実験を行った。予備実験より、「課題と音楽に含まれる言語情報の一致は作業成績を低下させる」という仮説が支持される可能性が示唆された。本実験では、上記の実験内容に加えて、日常での文章や音楽に対する関わりおよび実験内容に対する主観的報告について、質問紙により調査した。

作業量および誤答率について、課題条件と音楽環境の二要因分散分析を行った結果、作業量については、交互作用および課題と音楽の主効果はいずれも有意ではなかった。誤答率については、交互作用および音楽における主効果は有意でなく、課題の主効果のみが有意であった。この結果を先行研究を踏まえて考えると、歌詞と音楽の組み合わせは文章課題の作業量に影響を与えないが、歌詞に含まれる言語情報に着目した場合、言語情報の違いが文章課題の作業量に影響を与える可能性があるということが示された。また、誤答率については、特定の傾向が認められず、課題および音楽に含まれる言語情報の一致がどのような影響を及ぼすのかについて検討する場合は、意味の理解できる言語を複数扱うということ、そして言語の持つ影響力の違いや言語の意味処理方法の違いを考慮した上で、適切な課題設定を行う必要があるということが示された。

これらの結果から、「ながら勉強」における効果的な方法を新たに提示することはできなかったが、言語の持つ影響力の大きさを確認することができた。言語に関する検討を行う際には、上記のような留意点を考慮する必要があることが明らかになった。